

迷走 麻生首相は退陣を

麻生内閣の迷走がもう止まりません。麻生首相は11月25日、今臨時国会に追加経済対策の財源を調達する第2次補正予算案を提出しないことを正式に表明しました。しかし、「政局より政策」と言って10月30日に経済対策を発表し、それを解散・総選挙を先送りする理由としたのは首相自身です。その時には中小企業の緊急年末資金繰り対策などを強調し、「ポイントはスピードだ」と胸を張っていたのに、今度は年末には間に合わないと言うのです。国民への公約違反にほかなりません。

この内閣に予算編成は無理

対策の目玉・定額給付金をめぐる二転三転ぶりもひどいものです。全世帯給付と発表したのに、所得制限は「全然いい」と急転換。「私のところに来るはずがない」とトンチンカンなことを言ったと思ったら、今度は「自動的に自己申告でやってもらった方が簡単じゃないの」と自主的辞退方式を宣言。お次は、所得制限するかどうかを自治体に丸投げしておいて「地方分権だからよろしいんじゃないか」とうそぶき、自治体の反発を招きました。この内閣に予算編成はできないのではないか、という疑問の声が出てくるのも当然です。

早く総選挙で国民の信問え



極めつけは、思わず漏らした「医者とは社会常識がかなり欠落している人が多い」。政府の政策が招いた医師不足の中、命を守るために昼夜なく身を削っている医療関係者を侮辱するものです。現場の悩み、人々の苦しみへの想像力のかけらもない首相には、1日も早く辞めてもらうしかありません。社民党は、総選挙で国民の信を問うべきだと訴えます。

社民党